Press Release

「第３回東日本大震災に関する活動助成」における助成先の決定について

平成 24 年 6 月 11 日

公益財団法人ＪＲ西日本あんしん社会財団

当財団では、東日本大震災の被災地、被災者の方々への長期的な支援が必要な状況を踏まえ、被災者の方々への支援・救援活動や心のケア等の活動に対し、平成23年４月と同年10月の募集に引き続き３回目となる公募助成を実施いたしました。

このたび、応募のあった活動の審査を終え助成先を決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．応募状況及び選考結果

震災発生から１年以上が経過し、被災地から遠く離れた関西地区を対象とした募集でありながら、震災直後に実施した１回目の募集の応募総数に匹敵する 56 件もの応募をいただきました。

応募案件については、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施したうえで、最終的に理事会で 12 件の活動に対し総額 544 万円の助成を行うことを決定いたしました。

	応募件数	採択件数（助成総額）
第３回東日本大震災に関する活動助成	56 件	12 件（544 万円）

※各助成先の助成対象テーマ及び助成額は、別紙１「第３回東日本大震災に関する活動助成先一覧」をご参照下さい。

※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、別紙２「『第３回東日本大震災に関する活動助成』の審査結果について」をご参照下さい。

〈参考〉これまでの東日本大震災に関する活動助成
１回目：応募件数 57 件　採択件数 10 件　（助成金総額 495 万円）
２回目：応募件数 31 件　採択件数 10 件　（助成金総額 496 万円）

２．助成期間

平成 24 年４月１日から平成 25 年３月 31 日までの１年間です。

３．その他

本公募助成の詳細は当財団ホームページ（http://www.westjr-anshin-f.jp/）をご覧下さい。

＜お問合せ先＞
公益財団法人ＪＲ西日本あんしん社会財団
TEL：06-6375-3202

別紙1

第3回東日本大震災に関する活動助成先一覧

（団体名50音順、単位：万円）

名称	団体名	所在地	主な活動予定地		主な活動内容	助成額
宮城県山元町での屋内外の被災した箇所や屋敷林の撤去と、足湯など仮設住宅での寄り添い型活動	縁の下のもぐら	兵庫県芦屋市	宮城県	山元町 石巻市 気仙沼市	宮城県内の仮設住宅集会所において、ボランティアグループ「るるるジャパン」との共催で足湯やお茶を提供し、傾聴によりコミュニケーションを図る他、家屋の片付けや解体などの作業ニーズにも対応する。	50
子どもワークショップ「きらきらドキドキ☆うみたんけん！三陸の海と化石であそぼう！」	特定非営利活動法人大阪自然史センター	大阪府大阪市東住吉区	宮城県	気仙沼市 南三陸町	気仙沼市及び南三陸町で、「漁業」「魚竜など古生物化石」「リアス式海岸が生む磯の生態系」の3つをテーマに、こどもワークショッププログラムを開発、実施することで、震災で被害を受けたミュージアムと子どもたちを支援する。	50
仮設住宅及びみなし仮設住宅への訪問及びイベントの執行	大阪大学災害ボランティアサークルすずらん	大阪府箕面市	岩手県	九戸郡野田村	岩手県九戸郡野田村の仮設住宅やみなし仮設住宅にて、炊き出し、足湯等を行うほか、戸別訪問により孤独死、自死対策や被災者の心のケア、見守り活動を行う。8月には野田村の伝統的な祭りの開催に伴う準備・運営を支援する。	48
3.11川永団地避難入居者支援	川永　東日本大震災避難入居者支援の会	和歌山県和歌山市	和歌山県	和歌山市	被災地から避難した和歌山県営川永団地入居者に対し、就職、福祉関係の情報提供や県・市への申請等の支援を行うほか月1回定例の被災者の交流会を実施する。	20
福島県内孤立コミュニティにおけるサロン活動とニーズ調査	特定非営利活動法人京都災害ボランティアネット	京都府京都市伏見区	福島県	いわき市	本団体がコーディネーターを担い、福島大学といわき明星大学のボランティアセンターの学生が、避難住民の心のケアを行うと共に住民の状況とニーズを把握し、行政機関等に提供する。また、自治組織立ち上げの支援を行うとともに、学生ボランティアの育成活動を行う。	50
被災地の中学生のための学習支援及び保養プログラム	一般財団法人京都 YWCA	京都府京都市上京区	福島県 京都府	福島市 新地町 京都市	福島県の中学生を対象とした京都市内での学習支援や大学見学などで学習意欲を喚起すると共に、被災地中学生のリフレッシュを目的とした数人のチームによる訪問活動を行う。	50
被災家庭子育て支援学習サポート事業	特定非営利活動法人全日本企業福祉協会	大阪府吹田市	大阪府	吹田市	被災家庭の子どもの健全成長をサポートする「学習塾」を定期的に開催し、親の負担を軽減すると共に、親同士の情報交換の場を作る。また、地域のボランティアと連携し、ストレスケア活動を行う。	50
つながろう！東日本大震災被災者つどいネットワーク	特定非営利活動法人宝塚NPOセンター	兵庫県宝塚市	兵庫県	宝塚市	兵庫県内に点在する被災者の集いに情報の偏りがあるため、これをネットワーク化することで情報格差の是正を図り、支援スキル向上につなげる支援を行う。	31
みちのく　だんわ室／毎月1回　開催	東日本大震災被災者さんへの「暮らしサポート隊」	兵庫県神戸市垂水区	兵庫県		毎月1回、グリーフケアのための「みちのく　だんわ室」の開設や郊外へのピクニックなどを開催する。また、参加者による居住地単位のネットワークによる会合に対して、情報提供等の支援を行う。	45
仮設住宅の被災者と支援者の支援	兵庫県介護支援専門員協会明石支部	兵庫県明石市	宮城県	桃生町	地元のボランティアグループと共同しながら、歯科医師、看護師、介護福祉士等の資格を有するケアマネジャーによる被災者のニーズ把握、心のケアを含む継続的な支援を行う。	50
被災障害者の生活再建支援、事業化に向けた活動支援	特定非営利活動法人　ゆめ風基金	大阪府大阪市東淀川区	岩手県 宮城県 福島県		被災障害者への支援に関する個別ニーズに対応しながら、これらを福祉サービスに結びつけ、地元の人が担えるよう事業化するための書類整備や申請手続きを、事業所立ち上げの経験者を派遣するなどして支援する。	50
「私の好きなこの街」第4次復興支援コンサート	「私の好きなこの街」復興支援プロジェクト	兵庫県芦屋市	岩手県	陸前高田市 大船渡市	陸前高田、大船渡において、地元の合唱団と多くの市民が共同で支援コンサートを実施し、歌を通じて再生と復活を支援する。また、大阪等で報告コンサートを行う。	50

12件　544

「第３回東日本大震災に関する活動助成」の審査結果について

公益財団法人ＪＲ西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会　委員長　白取　健治

東日本大震災によりお亡くなりになられた方々に心より哀悼の意を捧げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

このたび、３回目となる東日本大震災に関する活動助成を実施しました。震災から１年以上が経過し、今なお復旧・復興の途上にある被災地は、国、行政はもとより民間団体による支援活動が不可欠な状況にあります。そのような状況を踏まえ、当財団では、近畿圏からの、あるいは近畿圏での被災地・被災者への支援活動を持続していくために、活動助成を継続して行うこととしました。

大変心強いことに、私どもの予想を大幅に上回る56件（助成申請総額2,566万円）の応募をいただきました。これは、震災直後の昨年４月に行った「第１回東日本大震災に関する活動助成」への応募総数57件に匹敵するものです。非常に多くの応募いただき、本当にありがとうございます。

そして、被災地から遠く離れた近畿２府４県において、被災地・被災者のために活動を行っている民間団体の方がこんなにも多くあることに、事業審査評価委員会委員一同、深く敬意を表するとともに、必ずや早期に被災地・被災者の復旧・復興がなされ、社会全体が一体として新たな一歩を踏み出していくことができると強く感じました。

審査においては、「本活動助成の趣旨への適合性」「活動計画の遂行能力」「経費の合理的使用」といった視点を重視し、被災地・被災者の現状を考慮しながら審査を行いました。

過去２回の活動助成と同様に、被災地・被災者が今まさに求めている活動にタイムリーな支援を行うため、可能な限り迅速な審査を心がけました。１次審査において、募集要項記載の各要件に沿っているかどうかという観点で審査を行い、２次審査では、前回同様、自身が東日本大震災の被災地におけるボランティア活動に継続して取り組んでいる渥美公秀委員を中心に、応募案件１件につき主査１名、副査２名の体制で審査を行いました。その後、２次審査の結果をもとに事業審査評価委員会で助成対象案件を選定し、理事長に答申を行いました。

各団体の知識と経験を十二分に発揮し、高い志と強い思いを持つ、きわめて質の高い活動が多数寄せられたことから、各委員の評価は大変拮抗いたしました。委員会としてはできるだけ多くの活動に助成を行いたいとの思いはありましたが、当財団では今後も継続して東日本大震災に関する活動助成を行っていくこと等を考慮し、最終的には予定助成額を超える計 12 件 544 万円（採択率 21.4%）の案件が理事会において採択されました。

今回の募集では、仮設住宅におけるコミュニティ形成支援や生活再建支援に関する応募が目立ったほか、心身両面で健康被害に苦しむ多くの被災者がいることから、被災地における心身のケアに関する応募も多く寄せられました。

震災から１年以上が経過し、被災地・被災者の実情に合わせ、被災者一人ひとりの顔が見える活動がより求められていくとともに、被災者自身の自立を促進する活動も重要となります。当財団では、今後も継続して東日本大震災に関する活動助成を行っていく予定ですが、その際には、被災地・被災者の現状、そして将来のことをしっかりと見据えた活動の応募を期待しています。

今回助成をさせていただく活動のみならず、残念ながら選ばれなかった活動も含め、被災地・被災者の復興の礎となることを心より願っています。